

2022 AUTOBACS SUPER GT ROUND8 MOTEGI GT 300KM RACE GRAND FINAL

NISSAN MECHANIC CHALLENGE

Race Report

栃木校担当



この活動は下記のパートナー企業様に支えられています。

NISSAN REALIZE GROUP YOKOHAMA RITWORK UD TRUCKS Logisnext 日産車体 株式会社ゼロ 日産モータースポーツ&カスタマイズ
ALTA ROCK PAINT PREMIER Assist 5 YEARS COAT Premium TOPPAN NGK NTK MAL TOOLS D&FF KAMMOTO LSI GTS LSI KSB
SUNTORY pepsi PUMA 日産東京 日産プリンス栃木 日産プリンス埼玉 埼玉日産 神奈川日産 日産プリンス神奈川 岐阜日産
日産プリンス三重 愛知日産 日産プリンス名古屋 日産大阪 兵庫日産 愛媛日産 日産プリンス福岡 日産プリンス秋田 長野日産 松本日産
千葉日産 日産プリンス千葉 日産自動車販売 浜松日産 京都日産 日産サテリオ佐賀 日産プリンス長崎 青森日産 日産サテリオ弘前 岩手日産
日産プリンス岩手 日産プリンス宮城 栃木日産 新潟日産 甲斐日産 日産サテリオ千葉 日産サテリオ湘南 石川日産 福井日産 日産プリンス静岡
三重日産 和歌山日産 岡山日産 日産プリンス広島 日産プリンス山口 福岡日産 日産プリンス大分 宮崎日産 鹿児島日産 K&D

【GT300クラス レース結果】

2022.11.5(Sat):Qualify Day

Weather:Sunny / Track:Dry

Q1:ドライバーは藤波選手が担当。開幕戦以来のノーウエイトでのレースウィークとなった。Aグループに割り当てられた56号車のタイムは1'45.985をマーク。見事Q1を2番手で突破した。



Q2:ドライバーはオリベイラ選手が担当。他車のアクシデントで一度赤旗が提示され、中断が起きるハプニングもあった中で1'45.985をマーク。7番手タイムとなるが他車のペナルティにより決勝レースは6番手グリッドスタートとなった。



2022.11.6(Sun):Race Day Weather:Sunny / Track:Dry

爽やかな秋晴れのモビリティリゾートもてぎに、大勢のモータースポーツファンが足を運んだ。



13時07分、藤波選手がスタートドライバーで決勝レースがスタートした。レース序盤から他車のアクシデントによりFCY・SCが導入される荒れた展開となった。その後は順調にレースが進み、25周目にドライバー交代のためにピットイン。給油とタイヤ交換も行なってオリベ이라選手がピットアウト。ペースは好調で、ライバル勢をオーバーテイクしていくが、41周目の3コーナーで右フロントタイヤが外れてしまった。再度タイヤを装着してコースに復帰するが、このアクシデントにより上位争いから脱落してしまった。しかし、レース終盤はチャンピオン争いをしていたライバル勢も順位を落としていったため、56号車はランキングトップに振り返り、見事2020年シーズン以来2度目のシリーズチャンピオンに輝いた。



【近藤真彦監督インタビュー】



Q.今年一年で一番レベルアップしたと感じたところはどこですか？

A. 優勝したり、ランキング1位にいたり、常にリザルトで上のほうにいと、みんながみんなを信用するようになる。その相乗効果でチームが強くなっていく。チームが強くなっていくと自然と揉めごとが減っていく。そこが今年一番レベルアップしたところです。

Q.日産メカニックチャレンジに参加している学生は普段とは違うシビアな環境で活動していますが、現場ではどのような力が必要で大切ですか？

A. 学生が学校では磨けない技術を現場で磨いてあげたい。チームには完成度の高い学生が来てくれている。そんな学生をもっともっと磨いてあげなきゃいけない。年々この活動に参加する学生の表情、目の輝きが違うのが見てよくわかる。だから、このプロジェクトは大切にしたいです。

Q.近藤監督がドライバー・チームスタッフなど、立場や年齢が異なる方とコミュニケーションを取るときに意識していることを教えてください。

A.ドライバーは二人いて、その日に調子良かったり良くなかったりする。調子のいい人にはみんな味方につくが、私は調子の悪いほうについてあげる。メカニックもそうで、失敗したら怒るけどその人につく。弱い立場になってしまった人をいかにバックアップして次のレースの時にニュートラルの位置に持っていくかを心がけています。

Q.日産メカニックチャレンジの魅力はどんなところですか？

A. 毎レースたくさんの学生が来てくれて、勉強してくれて、肌で感じてくれて、目で見て、触って、音を聞いて... 学校の机の上ではなかなか体験できないことを身体で覚えてもらうこと。学校に帰ったりした時に KONDO Racing の緊張感をここにも持ってこなきゃという気持ちになってもらう。それが、このプロジェクトの魅力だと考えています。

～レース前の貴重なお時間をいただき、ありがとうございました！～



【56号車ドライバーインタビュー】



～藤波 清斗選手～

Q.チャンピオンを獲得した今の気持ちはいかがですか？

A. ほっとしています。去年本当に悔しい思いをしたので、今年はチャンピオンを絶対奪還するという気持ちで開幕戦からずっと1位をキープしてきましたが、正直そう甘くはなくて本当にダメかなと思いました。しかし、運やラッキーもあって一つ一つちゃんとやっていたら最終的にチャンピオンを取れて、こうやって学生さんや皆さんと一緒に喜べるのが嬉しいし誇りです。

Q.日産自動車大学の学生へ一言お願いします！

A. 学生の皆さん一年間本当にありがとうございました。今年は重量も重く、色々ピリピリしたシーズンでしたがやっぱりチームなので一人でも欠けたら崩れてしまいます。そういう部分でも学生さんは本当に頑張ってくれて普段ない緊張感を味わえて、良い経験ができたと思います。そして僕もこうやって結果出せて一緒に活動できて良かったので、学生さんには誇りに思ってもらって、これを前向きで良い方向に活かしてもらえたら僕もうれしいです。

～レース後の貴重なお時間をいただき、ありがとうございました！～

～JP・オリベira選手～

Q.チャンピオンを獲得した今の気持ちはいかがですか？

A.今日は本当にジェットコースターのような一日でした。タイヤが外れるトラブルがあって、結果的には19番手でゴールしました。チェッカーを受けて1コーナーにいるときに無線で順位を聞きました。その3秒後くらいにチャンピオンと伝えられて、本当にびっくりしました。チャンピオンになれたのはすごく嬉しいです。

Q.日産自動車大学校の学生へ一言お願いします！

A.KONDO Racing と日産自動車大学校のコラボレーションで行なっているこの日産メカニックチャレンジは、とても大事なプロジェクトだと思います。
また来シーズン一緒に頑張りましょう！

～レース後の貴重なお時間をいただき、ありがとうございました！～



【日産販売店 TS インタビュー】

日産プリンス栃木販売株式会社

瀧澤 勇太さん

(栃木校第33期卒業生)



以前、同じ店舗の仲のいい先輩が参加して、楽しかったし良い経験になったと話していたので今回参加してみました。ミリ単位での調整を何度もやり直したりといったところが大変でしたが、スピード、正確性も求められるので、そういうところの細かい技術を学ぶことができました。学生の皆さんも学校で学べることと、現場で学べることは全然違うので、もし働く機会があれば頑張っしてほしいなと思います。

日産東京販売株式会社

遠藤 達哉さん

(栃木校第28期卒業生)



販売会社で今回の日産メカニックチャレンジの募集があり、元々レースに興味があったので、応募し参加しました。販売会社の整備ではお客様の車一台を一人で担当することが普通なのですが、レースでは車両一台に対してチーム全員で整備をするという違いがあり、チームワークの大切さを学びました。学生の皆さんも一つでも多くのことを学校で学んできて、僕たちと一緒に頑張りましょう。

【参加学生インタビュー】

日産栃木自動車大学校

学生スタッフ総リーダー 3年 大澤 謙世



今回は、学生リーダーとして参加させていただきましたが、前回の SUGO 戦の時よりも考えることが多く、自分の事だけで精一杯になってしまいました。リーダーとして集団をまとめ、常に全体の動きを把握することの大変さを痛感しました。栃木校全体の活動内容としては、過去最

多人数のお客様の対応を大きなトラブル等が起こることなく終えることができたので良かったと思います。ですが、自分の動きを振り返るとまだまだできることが沢山あったと思うので、来シーズンの日産メカニックチャレンジではこの反省をしっかり活かして、自分の成長に繋げていければいいと思います。

ホスピタリティエリアスタッフ 2年 黒澤 嘉紀



今回のもてぎ戦は、ホスピタリティエリアに250名近くのお客様が来場され、その方々をスムーズにお席に案内するために班員と協力しながら行動出来ました。そして、お客様の飲み物やお弁当を配ったときにお客様に喜んでもらったことが嬉しかったです。班リーダーとして、チームメンバーと連携することと準備や片付けで先輩や後輩と協力してコミュニケーションを取ることの大切さを学びました。

ホスピタリエリアスタッフ 1年 佐々木 千華



この活動を通して学んだことは、積極性です。私は自分から動くことや、話すことが苦手でしたが、できなくてもやってみて、少しずつ直していけたらいいと思うようになりました。初めての参加でとても緊張していましたが、先生方や先輩方が明るく声を掛けてくださったり、丁寧に教えていただいたおかげで緊張しながらも楽しく活動することができました。

ピットスタッフ 3年 石川 大樹



「責任感」を学びました。自分に課されていた仕事をどんなにきちんとかなしていても、時には想定外のことも起こり得る。そうなってしまった時に、自信を持って「やれる事はやった。あとは信じるだけ。」と胸を張っていられるように、常日頃から責任感を持って物事をこなしていくことの重要性を感じました。とても大切なことだと思うので、今後の人生に役立てていきたいです。

ピットマネージャー 1年 山口 竜河



今回の日産メカニックチャレンジで学んだ事は、直接ピット作業に携わらなくても自分たちの行動等でチームにペナルティを与えてしまうこともあるので、真剣に作業することです。初めは緊張していたのですが、自分の出来る作業をやるにつれ雰囲気にも慣れて、最終的には楽しむことが出来ました。

【広報活動を振り返って】

広報リーダー 4年 成田 颯

私たち広報メンバーは、今大会もコロナ禍による行動制限がある中で活動を行ないました。パドック側とホスピタリティエリアの行き来ができなかったり不便なこともありましたが、事前に役割を決めておくなど、前回の反省点を活かし、全員が協力して活動できました。また、チーム全員が最後まで諦めずに闘い、シリーズチャンピオンに輝く瞬間に立ち会えたことを大変嬉しく思います。

今シーズンの日産メカニックチャレンジも KONDO Racing のチームの皆様をはじめ、スポンサー様など、沢山の方々に支えられて活動ができました。この活動で得たものを普段の学校生活や将来に活かしていきます。

【広報メンバー】

成田 颯
金井 咲斗
熊谷 飛鳥
小野寺 紀

